管制官「食事中も無線聞き勤務」

羽田衝突　日航労組集会、人員不足訴え

東京・羽田空港で1月、海上保安庁と日航の航空機が衝突した事故について、背景にある問題を考える集会が11日夜、東京・永田町の衆院第1議員会館で開かれた。日航の元従業員でつくる労組が企画し、操縦士や管制官、客室乗務員（CA）の立場から見た問題点や再発防止策を語った。

昨年9月まで管制官を務めた佐藤比呂喜さんは、国家公務員の定数削減で管制官が不足していると指摘した。「食事中も無線を聞いている」と、まともに休憩できない実態を吐露。「人間は必ずミスをする生き物」として、管制官の増員などを訴えた。

元操縦士の山崎秀樹さんは、日航機の操縦席正面の窓にある計器情報を透過表示するヘッドアップディスプレーについて「夜は見えにくく、パイロットは視線や焦点の移動が難しい。安全を確保する上で教訓にしなければいけない」と指摘した。

元CAの宝地戸百合子さんは、航空法の基準では乗務するCAの数が乗客50人に1人で、非常口の数より少ない点を問題視。「緊急時は人命を守ることが最優先」として、基準の見直しを求めた。（山口登史）

羽田空港事故の再発防止策を訴える元CAの宝地戸百合子さん＝11日、東京・永田町で